

今月号の ■ニュースレター読者からのご感想 「GIGA スクール構想の現状(2021年7月現在)」  
トピックス ■ネットリスク教育研究会 「GIGA スクール構想×ネットリスク」学習会の報告

本号ではニュースレターに寄せられた感想と、連携団体であるネットリスク教育研究会 ICT 部会の学習会「GIGA スクール構想について」本間史祥さんに寄稿いただきました。なお、感想をお寄せくださったにもかかわらず、ご紹介が大変遅れましたことをお詫び申し上げます。



「GIGA スクール構想の現状」について感想  
(2021年7月現在)」

いつも養成協ニュースレターをお届けいただきましてありがとうございます。

乳幼児支援者研修会、お疲れ様でした。参加者のご感想などから、今回も情熱と周到なご準備、そして丁寧なご説明をされてこられたと感じました。

こうした啓発活動は今後さらに重要になってくると感じるがありました。それは GIGA スクール構想による影響です。

私の自治体は端末利用の推進ばかりで肝心のルールや運用計画についていまだに指針を示せてはいません。その結果、学校間はおろか、同じ学校内でも学年ごとにルールが異なってきます。端末利用に慎重な学年からとにかく何にでも端末を使う学年など様々です。中学校においては休み時間中に自由に YouTube を視聴させている学校もあります。

教育委員会が学校任せになっている自治体はほかにもあるように思います。そうすると啓発活動によってスマホやゲーム利用に慎重な保護者の家庭で子どもの利用がおかしくなり、保護者が学校や教育委員会に対して苦言を伝えるかもしれません。(そうなった方がいいかもしれませんが)

このままこの調子だと全国で深刻な問題が起こりそうで心配です。手遅れにならないように自分の足元の自治体からなんとかしなければとヤキモキしているところです。

今後も情報交換できましたら幸いです。(匿名)

「GIGA スクール構想×ネットリスク」  
ネットリスク教育研究会 ICT 部会

今、子どもたちの机の上には、従来の学習用具に加え、配備された端末が置かれています。ICT を使った様々な授業や教育活動が紹介され、研究が進められています。AIドリルを使った個別最適化学習、協働学習アプリを使った授業、オンライン授業、プログラミング教育など一人一台端末により子どもの学びは多様に広がりつつあります。

一方で、内閣府の調査によると青少年のネット利用時間の平均は約 205 分であり、前年度と比べて 23 分増加しています。また、0～6 歳までの低年齢層のネット利用時間は約 103 分であり、前年度と比べて 18 分増加しています。各種統計調査を見ても、子どものネット利用時間の長時間・低年齢化は進んでいることが現状です。その影響から脳や視聴覚、睡眠などの健康被害が生じ、ネット利用時間との相関が明らかになりつつあり、専門家が警鐘を鳴らしています。子どもや学校の ICT 化が進んだ反面、子どものネット利用に不安を抱く人も増えたのではないかと感じています。その証拠に 2020 年 11 月発行アンデシュ・ハンセン著「スマホ脳」が 55 万部を超えるベストセラーになり、社会的な関心の高まりを感じています。

本研究会では、2021 年 2 月に「GIGA スクール学習会」を行い、現職教員より現場の実態を報告してもらい、学ぶことができました。また、2021 年 8 月には、現職教員 3 名 + IT 企業関係者の 4 名でパネルディスカッションを行い、現場での状況を交流するとともに、子どものための ICT 教育とは何か、GIGA スクール構想の課題は何かを探っていきました。ネットリスクを啓発するために GIGA スクール構想の実態を知ることで、子どもや学校に寄り添った啓発につながると感じています。

GIGA スクール構想の今後にも着目しながら、ネットリスクを啓発、調査・研究を進めていきます。

(本間)

ご意見・ご感想をお寄せいただくと幸いです。  
連絡先：養成協 HP よりメール(燈火編集長 矢野宛)